

1 結果の要約

(1) 出生数は減少

出生数は5,601人で、前年の5,685人から84人減少し、出生率（人口千対）は7.8で、前年の7.9を下回った（全国第34位）。

合計特殊出生率は1.55で、前年の1.51を上回り、全国第5位（昨年
は第9位）であった。第1位は沖縄県（1.79）、第2位は宮崎県（1.61）、
第3位は熊本県（1.58）である。

(2) 死亡数は減少

死亡数は8,854人で、前年の9,011人から157人減少した。死亡率（人
口千対）は12.4で、前年の12.5を下回った（全国第2位）。

死因別にみると、死因順位の第1位は悪性新生物、第2位は心疾患、
第3位は脳血管疾患となっている。全死亡に占める割合はそれぞれ28.0%、
16.0%、11.0%である。本県では平成7年以降、死亡者のおよそ3割が
悪性新生物で死亡している。

(3) 自然増減数は増加

出生数と死亡数の差である自然増減数は $\Delta 3,253$ 人で、前年の $\Delta 3,326$
人から73人増加し、自然増減率（人口千対）は $\Delta 4.5$ で、前年の $\Delta 4.6$
を0.1上回った（全国第45位）。本県は平成4年以降、死亡数が出生数
を上回る自然減となっている。

(4) 死産数は減少

死産数は144胎で前年の155胎より11胎減少し、死産率（出産（出生
＋死産）千対）は25.1で、前年の26.5を下回った。死産率のうち、自
然死産率は11.7（前年は12.5）、人工死産率は13.4（前年は14.0）でい
ずれも前年を下回った。

(5) 婚姻件数は増加

婚姻件数は、3,220組で、前年の3,103組から117組増加し、婚姻率（人
口千対）は4.5で、前年の4.3を0.2上回った（全国第42位）。

平均初婚年齢は夫29.8歳、妻28.1歳で、夫は前年と同じ、妻は前年
より0.2歳上昇した（全国平均は夫30.4歳、妻28.6歳）。

(6) 離婚件数は増加

離婚件数は1,127組で、前年の1,117組から10組増加し、離婚率は(人口千対)1.58で前年の1.55を上回った(全国第44位)。

表1 人口動態総覧

	実数			率		平均発生間隔	
	平成21年	平成20年	対前年増減	平成21年	平成20年	平成21年	平成20年
出生	5,601	5,685	△84	7.8	7.9	1時間33分50秒	1時間32分27秒
死亡	8,854	9,011	△157	12.4	12.5	59分21秒	58分19秒
乳児死亡	11	11	—	2.0	1.9	33日4時間21分49秒	33日4時間21分49秒
新生児死亡	6	5	1	1.1	0.9	60日20時間	73日
自然増減	△3,253	△3,326	73	△4.5	△4.6	…	…
死産	144	155	△11	25.1	26.5	2日12時間50分	2日8時間30分58秒
自然死産	67	73	△6	11.7	12.5	5日10時間44分46秒	5日
人工死産	77	82	△5	13.4	14.0	4日17時間45分58秒	4日10時間49分45秒
周産期死亡	26	22	4	4.6	3.9	14日55分23秒	16日14時間10分54秒
妊娠22週以後の死産	24	19	5	4.3	3.3	15日5時間	19日5時間3分9秒
早期新生児死亡	2	3	△1	0.4	0.5	182日12時間	121日16時間
婚姻	3,220	3,103	117	4.5	4.3	2時間43分13秒	2時間49分23秒
離婚	1,127	1,117	10	1.58	1.55	7時間46分22秒	7時間50分32秒

	平成21年	平成20年
合計特殊出生率*	1.55	1.51

* 分母に用いた人口
5歳階級別総人口(総務省推計)

注:出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は人口千対。乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対。死産率は出産(出生+死産)千対。周産期死亡率・妊娠満22週以後の死産率は出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千対である。